

正しい診断 たしかな施工

調査診断補修・補強工事を全国展開

当社（本社＝大阪市）は、構造物の調査診断から、補修・補強工事を手掛けています。北海道から沖縄まで全国で事業展開しており、「正しい診断 たしかな施工」を会社のモットーとし、46年の実績を積み重ねてきました。

調査診断

インフラである橋梁やトンネル・建物等、その多くはコンクリートによって造られています。

高度成長期に造られた日本のインフラの現状は平均年齢が50年を超えるものが多くなり、コンクリート構造物では老朽化が進んだものが確認され、安全に供用するには対策が必要な時期を迎えました。適切な維持管理による長期供用を目指すには、その元となる調査診断が重要です。

調査診断の必要性とは橋梁をはじめとする構造物の現状を的確に判断することにあります。はじめに目視で全体の把握を行い、次に必要に応じて詳細調査を行います。当社では赤外線サーモグラフィ装置を用いてコンクリートの剥離や漏水等を調査する赤外線調査をはじめ、各種の非破壊調査機器を駆



コンスファインダーANRシステム

使した調査診断を行っています。

赤外線調査

赤外線サーモグラフィ装置を用いた調査方法の一例として「コンスファインダーANRシステム」を紹介します。このシステムは非冷却型赤外線センサを搭載した赤外線サーモグラフィです。一般的に非冷却型赤外線センサは現場での使用性に優れているものの、センサのノイズが画像を不鮮明にする問題も起こります。このセンサのノイズを低減するのが本システムの特徴です。この機能により得られる熱画像は通常の赤外線サーモグラフィ装置を使った熱画像に比べて検査における視認性が向上されました。視認性は部材の異変を気付く上でとても重要です。鮮明な画像には様々な現状が写し出され、調査内容の確かさを左右し

(株)コンステック



赤外線撮影状況

ます。本システムを用いた検査方法は建設技術審査証明を取得しているため変わらぬ技術を維持できます。当社はこのシステムを使用した多くの調査実績を積み重ねてまいりました。橋梁や建物などの劣化や損傷検査に適用出来る本システムはインフラ長寿命化基本計画に大きく貢献出来ると考えます。

部分的な劣化は適切に補修すれば継続的に使用できます。当社の調査診断、補修・補強工事は材料や構造の特性を活かすとともに、その構造物への最適な補修、維持管理の提案が可能です。当社の技術は橋梁や建物などの長寿命化に大きく寄与いたします。

問い合わせ・資料請求は

(株)コンステック

(HP: <http://www.constec.co.jp>)
まで。